

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくりまします。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくりまします。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくりまします。



編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 ☎ 36-0231

楽しく学んで

暑さを忘れる

「日ぐらし硯にむかいてよしなしごとを」と兼好法師は書いています。日常生活のこと、悲しみ、喜び、くやしきなど、感じたことを書きとめる、自分の姿を想像してください。ホッとひとときの暑さを忘れるではありませんか。ずいひつや自分史を書いてみませんか。

このため、9月14日(土)と9月22日(日)に『ずいひつ講座』を開催します。

あなたの書きたい、知りたいという気持ちに十分こたえられます。

9月14日(土)は、作家で大学教授の後藤明生氏を迎えて、9月22日(日)は、朝日ジャーナル編集長の筑紫哲也氏を迎えることができます。ともに午後1時30分から。連続講座ではありませんがぜひ2回とも受講してください。

紙しばいの魅力

最近まで「昔紙しばい、今テレビ」でした。紙しばいのおじさんは、自転車でやってきました。

ドンドンドンと太鼓を叩きながら、「さーあ、さあさー、紙しばいだよ」と、子どもたちを誘いました。子どもたちは、小銭を握りしめて飛び出します。夢中で紙しばいを見たものです。八幡山では、紙しばいのおじさんたちの演じ方競争がありました。そればかりではありません。全国大会もあって、宇都宮の「紙しばいおじさん」は優勝する人もいて、かなりレベルが高く、盛んだったと聞いています。

ある年代の方は、塩昆布や水あめとともに懐かしく思い出せるのではないのでしょうか。

今図書館では、紙しばいに子どもの人気が集まっています。

しかし、紙しばいの取扱いに戸惑うお母さんが多く見られます。

このため、宇都宮子どもの本連絡会と共催で、紙しばいの第一人者といえる、児童文学者堀尾青史氏を招いて、9月8日(日)午後1時30分から、『子どもと子どもの本をつなぐ講座第2回』を開催します。

8月18日(日)午前10時から、郷土出身の作家・立松和平氏を招き、



写真は、立松和平氏(昭和58年6月19日開催「小説作法講座」)

「時代を生きるということ」と題して講座を開きます。最近小説ばかりでなく、テレビでも活躍しています。みんなで応援し、郷土の作家を激励しませんか。

鎌倉時代、宇都宮に京都歌壇の影響を受けた人々がいました。

「宇都宮歌壇」について、8月25日(日)午後1時30分から河住玄氏が日頃の研究をみなさんにご披露してください。

みなさん、こぞつて参加してください。くわしくは、4面ニュースコーナーをみてください。

◆講師プロフィール◆

後藤明生(ごとう・めいせい)

作家 昭和7年生 早大露文科卒 著書に「人間の病氣」「夢かたり」「吉野大夫」他

筑紫哲也(ちくし・てつや)

朝日ジャーナル編集長 昭和10年生 早大政経学部卒 テレビ等で活躍中

堀尾青史(ほりお・せいし) 児童文学者 大正3年生 著書に「しらさぎとあきひこ」「ぎんの川」

「紙芝居―教育と創造性」他

立松和平(たてまつ・わへい)

作家 昭和22年生 早大文学部卒 著書に「遠雷」「蜜月」他

河住玄(かわすみ・げん) 郷土文学研究家「宇都宮歌壇叢書」他

ご利用ください

主題別児童図書目録

昭和56年、開館の年の10月から、児童室では、蔵書の中からテーマを決めて本のリストを作り「月の本」としてカウンターで利用者の皆さんに配布し、資料としてきました。

図書館に本を探しに来る利用者の中には、すでに求める本の題がはつきりしている人と、こんなふうな内容で……と漠然としている人があります。児童室の場合子どもたちの質問は、その後者のことが多く、「魔法使いの本ない?」「かいじゅうの本ない?」と、たずねてきます。

本との出会いは、乳児のまわりの人々のことばが、きっかけとなります。小さい時は絵本を読んでもらい、だんだんと自分で本を読むようになり、次第に身のまわりのもの全てに興味を持てきます。虫たちや、星や動物たち、まほうのお話など、どんどん広がる子どもたちの心。そんな気持ちを大切にするために、まわりにいる人たちに少しでもお手伝いができればと思います、この目録ができればまし

た。

テーマとしては、青・赤などイメージのもの、犬・ねずみなど動物のもの、クリスマス・ひなまつりなど行事のものなど、47テーマです。のべ5,700冊がのつています。この目録にあげた本は、児童室にある絵本・文学作品・むかしばなしに限りませんでした。動物の生態について……という質問にはちよつと答えられませんが、おぼけ

のはなしは……という質問には答えられます。

当館は、貸出冊数の約4割が児童書です。いかに、子どもたちが本を求め、読んでいくかがわかります。現在児童書は館内で約4万3千冊所蔵しています。子どもたちは読みたいと思った時、本が手近にないとなかなか満足しません。そのため、児童室では同じ本を2〜5冊ずつ買っています。それでも足りません。貸出し中の時は、予約してください。

子どもは何かを求めはじめると、どんどん進んでいくようになります。経験の深化や広がりにつなぐ、適

宇都宮市立図書館 主題別児童図書目録

おぼけ



書名	著者名	出版社
あかい森のおぼけ	グレン・コリン	学研社
あくびおぼけ	舟崎靖子	国土社
足のないおぼけ	与田徳一	童心社
あめをかうゆうれい	飯島たかし	学研社
アンパンマンとおぼけのり	やなせ たかし	フレーベル館
生きてるおぼけ村	須藤 克三	学研社
いたずらおぼけピピ	大川悦生	ポプラ社
いたずらおぼけベレレ	手島 悠介	講談社
うきうきおぼけ	瀬名 忠子	あかね書房
池のおぼけオーリー	高橋 幸	岩波書店
おいしいおぼけ	さきもと けい	岩波書店
おしっこおぼけ	高橋 幸	岩波書店
おしっこおぼけの1年1組	宇野 克彦	成成社
おしっこおぼけのもっさり	宇野 克彦	成成社
おしっこおぼけはだめ先生	宇野 克彦	成成社
オットはかせいのおぼけやさん	寺村 輝夫	金星社
お父さんはゆうれいを持っていた	小 暮 正夫	学研社
おぼけさんのすてきな庭	三田村 信行	国土社

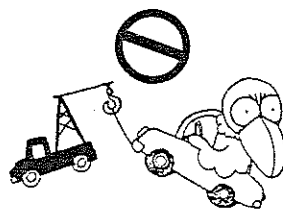
切な本が必要となります。次々に興味も変わり、熱中し、突然求めてきます。この子どもたちに応じるのに、戸惑うこともあるでしょう。そんな時、役立てていただきたいし、子どもたち自身も、調べる手段として使ってほしいと思います。市内の公民館や小学校、幼稚園、保育園、文庫などに送付しましたので、ぜひ、活用していただきたいと思います。そして、もつと、子どもたちの夢を広げていつてほしいと願います。

これからは、月ごとにテーマを決めて「月の本」のリストを作っていきます。何か、どうしてもとりあげてほしいテーマがありましたら、児童室に声をかけてください。また、この目録以外で、それぞれのテーマの本がありましたら教えてください。もつと、使いやすい、資料の豊富な目録にしていきたいと思っています。

この目録作成後も、鳥さかな・いるか・くじら・太陽など、テーマもいろいろふえてきました。皆さんも、何かテーマを決めて、一度本を読んでみませんか。いろいろおもしろいことがわかってくるかもしれません。子どもたちに限らず、大人も児童書を読んでみませんか。夢をとりもどして。

路上駐車禁止

図書館前の道路は、駐車禁止となっています。図書館西側、北側駐車場が満車でも文化会館北側駐車場は空いている時が多いので、そちらも御利用下さい。また、講座受講の際は、相乗りで来館されますよう御協力を、お願いいたします。



互借

当館に読みたい本がなかった時で

相貸

都宮市立図書館を

公共図書館や国立国会図書館から入手できます。このたび、栃木県下の公共図書館の間では「相互協力協定」が結ばれ、互いに貸出や複写を行っています。ただし、資料提供館の条件で館内閲覧やコピーのみの場合もありますので、ご了承ください。

詳しくは3階調査相談カウンターへご相談ください。

第1回子どもと子どもの本をつなぐ講座

「ゼロから出発して絵本づくりまで」 まついのりこ氏

6月30日に、絵本作家のまついのりこ氏をお招きして、講座が開催されました。

「ゼロから出発して絵本づくりまで」をテーマとしてのお話は、このゼロの考え方からはじまりました。まつい氏にとつてのゼロとは、全く無い状態のことではなく、ゼロ個あることで、そう考えてはじめて次の段階に進めるのではないかと、ほんとうに何もなければ、次の一歩もない、と強調されました。

「本を読む楽しみ」 石井文夫氏

7月14日読書指導者養成講座を開催しました。

テーマは、「本を読む楽しみ」でした。本を読む楽しみを味わうには、本が好きであることが大前提です。本が好きになるには、本との出会いがどんなものであるかが大切だと力説されました。

個人を取り巻く環境とくに子どもにとつては「母親」、時代状況が大きく影響します。

したがって、よい本との出会いを持つように心がけて、楽しい読書を実践しようと呼びかけられました。

た。

子どもが生まれて、産室で「私の絵本の第一番の読者ができた」と思ったこと、その子のために世界にひとつしかない絵本を作りたいと思い、書きはじめたものの、なかなかできなかつたことなどを熱っぽく語られました。

おとなの目から見て良い絵本と、子どもが求める絵本とはちがっている。だから、親子で作る手作り絵本は素晴らしいものであるとの

先生の家庭の一隅に本棚があり、家族みんなでそれを読んだこと、母親によりみかせてもらった思い出、戦時中に少年期を過ごされた読書体験を静かな口調で話されました。

中古文学の研究という仕事柄、調べるために読み、それを楽しんでいるということでした。

知らないことを知る読書—これ以上の楽しみはないと強調されました。

講師 石井文夫 宇都宮大学教授
栃木県優良推薦図書審査会専門員
会会長

「古文書の読み方講座」 戸田博巨氏

6月22日に初心者対象の講演会「古文書の読み方講座」が開催されました。

郷土を理解するために、まず先人が書き残した古文書を理解しようと、受講者は熱心に耳を傾けていました。

二時間の講演会前半は、古文書及び古文書学、幸↓卒、法↓添など古字についてわかりやすく、具体的に説明してくださいました。

後半は、実際に近世文書を使って解説の演習を行いました。

古文書の勉強の仕方は、推理をし、解説した字をためていくこと

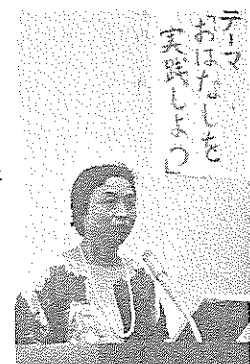


「おはなしを実践しよう」 清水道尾氏

6月15日に、児童文学者、清水道尾氏を講師に迎え、公開講座「おはなし会」が開催されました。

氏のお話は、実践的でわかりやすいと好評で、当日は多くの受講者が参加して、講演は和気あいあいのうちにすすめられました。

演題は「おはなしを実践しよう」。清水氏が主宰しているめんどり文庫でのおはなしの様子や、おはなしをするにあたっての基本姿勢を話されたあと、実際に氏が自ら実践してくださいました。



受講者の有志がストーリーテリングをしてみせ、それぞれ活発な意見交換や質疑応答がかわされました。おはなしは難しいと感じている人がほとんどですが、初めから重いものをやらず語りやすい素材を選べば良いのだそうです。子どもと接触の多くなるこの夏休み、あなたもおはなしを実践してみませんか。

目次

問 鉄道についての本をたくさん読んでください。

答 希望の本の名前、著者、出版社をはっきりしてください。また、目録も見てください。みつからないときは職員に聞いてください。図書館にないときは、リクエストしてください。できる限り購入します。

ステーション・マスター研修会

日時 8月18日(日)

午前10時～正午

講師 立松和幸氏(作家)

場所 市立図書館3階集会室

テーマ「時代を生きるということ」

対象 ステーション・マスター及

び読書に関心ある一般市民。

定員 120名

受付 8月9日(金)から

郷土文学講座

「宇都宮の歌壇」につ

いてのテーマで、次

のとおり開催します。

日時 8月25日(日)

午後1時30分～3時

講師 河住玄氏

場所 市立図書館3階集会室

定員 120名

受付 8月16日(金)から

第2回子どもと子どもの本をつなぐ講座

日時 9月8日(日)

午後1時30分～3時30分

講師 堀尾青史氏(児童文学者)

場所 市立図書館3階集会室

テーマ「子どもの発達のために魅

力ある紙芝居を」

定員 120名(託児20名)

受付 8月30日(金)から

第1回すいひつ講座

日時 9月14日(土)

午後1時30分～3時30分

講師 後藤明生氏(作家)

場所 市立図書館3階集会室

テーマ 未定

定員 120名

受付 9月6日(金)から

第2回すいひつ講座

日時 9月22日(日)

午後1時30分～3時30分

講師 筑紫哲也氏

場所 市立図書館3階集会室

テーマ 「現代と表現」

定員 120名

受付 9月13日(金)から

ニュースコーナー

映画会

敬老の日になんで

日時 9月15日(日)

①午前9時30分②午後1時30分

題名 竹取物語

夢かぎりなく

定員 150名。整理券が必要。

○講座受講申し込み

電話または直接図書館へ

電話 (36) 02331

貸出状況

区 分		60年6月	60年度累計 60/4～60/6
登 録 者 数	館 内	1,034人	92,179人
	館 外	2,126	5,403
貸 出 人 数	館 内	21,555人	54,315人
	館 外	3,619	9,733
計		27,300	69,451
貸 出 冊 数	館 内	64,309冊	162,702冊
	館 外	4,863	12,361
計		15,023	31,754
		84,195	206,817

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

6月の 館内 1日あたり 館外 1ステーションあたり

貸出人数 876人 40人
貸出冊数 2,624冊 130冊

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

○貸出は

一人5冊。2週間以内

○貸出冊数最高記録達成

6月2日(日)に一日あたりの貸出

冊数の最高記録を更新しました。

貸出冊数は、9,301冊。

過去最高は、8,728冊。(59

年9月16日)

8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟

ボランティア製作

あたらしい本

点訳図書

▽見ながらスグ作れる

毎日の朝食(関光子)

▽深夜の追跡(斎藤俊

子)▽仮装舞踏会の秘

密(増山初美)▽ティ

ギーおぼえのおはな

し、ジュレミー・フィ

ッシャードンのおはな

し(志田弘子)▽グロス

スターのし

たてや(小林弘子)▽こ

とりにな

ったライオン(熊倉正

子)▽明日

1945・8月8日・長崎

(中田範子)

声の図書

▽鬼女哀し(横山嘉子)

▽レバ

ノン極私戦、北越雪譜

(藤田東子)

火の昔(黒川敏子)▽生

ジュース

で健康に強くなる本

(青木桂子)

この他読書感想文課題

図書全14

点の点訳・録音が終了

しました。

星野里子「病めるときも」・南

海友の会「南海友の会戦記」・広

瀬直彦「何のための豊かさ」・宇

女高郷土クラブ「マレー半島南下

の旅」・進藤初洋「北京雨情」・

大町雅美「図説那須野の地下水探

査記録」・塙静夫「ささ舟」・増

淵一穂「実作に思う1・2」・中

村克己「マレー進攻作戦」・古沢

共治郎「朝日新聞」ほか多数。